

- 問1 平安時代後期に院政を最初に始めた上皇は誰？
- 問2 平清盛が日宋貿易を推進するために修築した、兵庫県の港を何という？
- 問3 平安時代に唐から帰国し、比叡山に延暦寺を建てて天台宗を開いた僧は誰？
- 問4 平安時代に、地方に赴任せずに京に留まったまま役職だけを持つ国司のことを何という？
- 問5 平安時代に日本独自の文化が発展したきっかけとなった、遣唐使が停止された時期はいつ？
- 問6 平安時代中期に、貴族社会を題材とした長編物語『源氏物語』を執筆した女性作家は誰？
- 問7 平安時代、紀貫之に最初の勅撰和歌集の編纂を命じた天皇は誰？
- 問8 平治の乱で勝利し、武士として初めて太政大臣に任命された人物は誰？
- 問9 摂関政治を抑制し、独自の権力を取り戻そうとした天皇は誰？
- 問10 平安時代中期に『枕草子』を著し、宮廷生活の機微を描いた人物は誰？
- 問11 娘を天皇の后にして天皇の親戚となり、藤原氏の全盛期を築いた人物は誰？
- 問12 天台宗において、あらゆる人が救われるという教えの中心となっている経典を何という？
- 問13 平泉の奥州藤原氏が、極楽浄土を表現するために建立した金箔の仏堂を何という？
- 問14 平安時代初期に、唐で密教を学んで帰国し、高野山を拠点として真言宗を開いた僧は誰？
- 問15 平安時代の貴族文化において、仏教の教えを絵画や工芸品などを用いて表現したものを何という？
- 問16 摂関家を外戚に持たず、荘園整理令を出して藤原氏の勢力を抑えた天皇は誰？
- 問17 平安時代に発達し、日本の物語文学が発展するきっかけとなった、日本語の音を書き表す文字を何という？
- 問18 平安時代初期、地方政治の立て直しを図り、国司への監督を強化した天皇は誰？
- 問19 「この世をば わが世とぞ思う…」と詠み、当時の絶大な権力を誇示した人物は誰？
- 問20 平安時代中期、天皇の后を出すことで政治の実権を握った代表的な一族は誰？
- 問21 平安時代中期、天皇が幼いときに補佐する役職を何という？
- 問22 空海が高野山に建立した、真言宗の総本山として知られる寺院は何？
- 問23 平安時代末期、東北地方を拠点として独自の勢力を築いた一族を何という？

答え合わせ・解説

問1	答え 白河上皇	白河上皇は1086年に院政を開始しました。上皇は自分の屋敷である「院」に院庁という機関を設け、天皇に代わって国の重要事項を決定しました。これにより、有力な貴族ではなく上皇が政治の主導権を握るようになりました。
問2	答え 大輪田泊	平清盛は、瀬戸内海の海上交通を支配し、安全な航行を確保しました。その要衝として、現在の兵庫県神戸市にある大輪田泊を修築しました。これにより、宋からの商船がより安全に寄港できるようになり、日宋貿易は大きく発展しました。
問3	答え 最澄	最澄は、唐に渡って天台の教えを学び、日本に帰国して比叡山に延暦寺を建立しました。彼は「すべての人が救われる」という平等を説き、厳しい修行を重視する天台宗を開きました。また、比叡山には多くの優れた僧が集まり、後の日本仏教界に多大な影響を与えました。
問4	答え 遙任	遙任（ようにん）は、国司が自らは現地に行かず、代わりに代官である「目代（もくだい）」などを派遣して統治させる形態です。これにより国司は責任を回避しつつ収益だけを確保することができましたが、地方政治の腐敗を加速させる要因となりました。
問5	答え 9世紀末	894年、菅原道真の建議により遣唐使は停止されました。これにより、大陸からの直接的な影響が減り、日本の風土や日本人の感性に合った文化が育まれるようになりました。これが国風文化の始まりです。
問6	答え 紫式部	紫式部は藤原道長の娘に仕えた女房であり、宮廷社会の複雑な恋愛や人間模様を描いた長編小説『源氏物語』を執筆しました。当時の貴族の優雅な生活や、内面的な感情まで細やかに描き出したこの作品は、日本文学の最高峰とされています。
問7	答え 醍醐天皇	醍醐天皇は学問や芸術を尊重し、多くの文人を重用しました。905年、彼は紀貫之に命じて、それまでの和歌を集めた日本初の勅撰和歌集『古今和歌集』を編纂させました。この事業は、日本の文学史において非常に重要な出来事です。
問8	答え 平清盛	平清盛は、平治の乱で源義朝を破って政権を握りました。武士として初めて太政大臣に任命され、一族の繁栄を築き上げました。また、日宋貿易を積極的に行い、経済的基盤も強化しました。
問9	答え 後三条天皇	後三条天皇は、母が藤原氏の出身ではなかったため、藤原氏の影響をあまり受けずに即位しました。彼は藤原氏の干渉を排除して政治を行うため、記録荘園整理令などの政策を打ち出し、天皇中心の政治を復活させようとした。この動きが、のちの院政へとつながる重要な転換点となりました。
問10	答え 清少納言	清少納言は、中宮定子に仕えた女房です。彼女の代表作『枕草子』は、「春はあけぼの」という有名な書き出しで始まる随筆です。宮廷生活の中での出来事や、自然の美しさに対する鋭い観察眼と、彼女自身の機知に富んだ考え方がユーモアを交えてつづられています。当時の貴族社会の価値観や美的センスを知るための極めて重要な資料です。
問11	答え 藤原道長	藤原道長は、娘を次々と天皇の妃として入内させることで、天皇の外戚として揺るぎない地位を確立しました。この強力な血縁関係を武器に、政治の決定権を独占し、藤原氏による統治の最盛期を現出させました。
問12	答え 法華經	法華經は、天台宗が最も重視する經典で、「すべての人は平等に救われ、仏になることができる」という教えを説いています。最澄はこの經典に基づき、人々に正しい修行と理解を求めました。この包摂的な教えは、特定の僧侶だけでなく、多くの人々に仏教の門戸を開く役割を果たしました。
問13	答え 中尊寺金色堂	中尊寺金色堂は、建物の内外を金箔で覆った非常に豪華な造りです。奥州藤原氏の財力を象徴するだけでなく、戦乱の絶えない現世を離れ、平和な極楽浄土を地上に再現しようという願いが込められています。
問14	答え 空海	空海は遣唐使として唐へ渡り、恵果から密教の教えを授かりました。帰国後、嵯峨天皇から京都の教王護国寺（東寺）を賜るとともに、和歌山県の高野山を修行の拠点として真言宗を開きました。密教は、經典の言葉だけでは表せない深い教えを、仏像や曼荼羅、印や真言などを使って表現するのが特徴です。
問15	答え 浄土教美術	浄土教美術は、阿彌陀如来や極楽浄土の華やかな世界を絵画、彫刻、建築に込めた芸術です。平等院鳳凰堂の内部にある華麗な障壁画や、阿彌陀如来坐像などは、当時の最高の職人や芸術家によって作られました。繊細な装飾や美しい色彩は、平安貴族の優雅で洗練された文化を象徴しています。
問16	答え 後三条天皇	後三条天皇は、母が藤原氏出身ではない天皇として即位しました。記録荘園券契所を設置して延久の荘園整理令を出し、不正な荘園を廃止して朝廷の財源を確保しました。これにより、藤原氏の経済的基盤が揺らぎ始めました。
問17	答え かな文字	かな文字は、漢字の一部を省略したり、崩したりして作られた文字体系です。平安時代になると、この文字を使って自分の感情や日常を表現することが貴族社会で流行しました。これにより、漢文のような堅苦しい文章だけでなく、感情豊かな日本語による文学が発展しました。
問18	答え 桓武天皇	桓武天皇は長岡京を経て平安京へ都を移し、国家の立て直しを行いました。地方行政の主役である国司を中央から厳しく監視し、不正を防ごうとしました。また、蝦夷の平定にも力を注ぎました。
問19	答え 藤原道長	藤原道長はこの戦略を最大限に活用しました。自身の子や孫が天皇となることで、天皇の代理である「摂政」や「関白」として政治の全権を握りました。その自信と誇りを象徴するのが「望月の歌」であり、満月のように欠けるものない権力を持っているという自負を表現しています。
問20	答え 藤原氏	藤原氏は、自分の娘を天皇に嫁がせて生まれた子を次代の天皇にすることで、天皇の親戚（外戚）として権力を振るいました。藤原道長の時代に全盛期を迎え、朝廷の主要な官職を独占しました。
問21	答え 摂政	摂政は天皇が幼少の際に代理として政治を行う役職であり、成人後は関白として補佐しました。藤原氏は一族から天皇の后を出すことでこの地位を世襲し、朝廷の政治を思いのままに動かしました。
問22	答え 金剛峯寺	金剛峯寺は、高野山にある真言宗の拠点となる寺院です。空海は嵯峨天皇からこの土地を下賜され、修行道場を築きました。広大な敷地には多くの寺院が立ち並び、宗教都市としての役割も果たしました。金剛峯寺は、真言宗の教えを広める中心地として、また信者たちが祈りを捧げる聖地として長年大切にされてきました。
問23	答え 奥州藤原氏	奥州藤原氏は、豊かな金の産出や馬の取引、大陸との貿易などを通じて莫大な富を築きました。この富を背景に、平泉の地に壮大な寺院群を建立し、仏教文化を花開かせました。